

平成 27 年度 第 1 回高知県歯と口の健康づくり推進協議会 議事録要旨

1. 【日時】平成 27 年 7 月 6 日（月）19：00～21：00

2. 【場所】高知共済会館 4 階 浜木綿

3. 【出席者】推進協議会 17 名（2 名欠席）

事務局 6 名

4. 審議事項

(1) 基本計画に基づく平成 27 年度の取り組みについて

- ・むし歯予防対策
- ・歯周病予防対策
- ・高齢者等の歯科保健対策

(2) 今後の予定について

5. 議事の経過の概要および結果

(1) 議題の審議

議長の議事進行により、各議題について事務局の説明を受け、審議が行われた。

「議題（1）基本計画に基づく平成 27 年度の取り組みについて

事務局から平成 27 年度からの歯科保健推進体制及び平成 27 年度の取り組みの概要について報告。

- 平成 27 年度から高知県歯と口の健康推進検討会を、「歯科保健対策検討会」、「歯科医療対策検討会」、「歯と口の健康づくり基本計画検討会」の 3 つの検討会で構成し、災害歯科保健医療対策検討会及び在宅歯科医療推進連携協議会とあわせて、それぞれ歯科保健医療対策を推進していくことを報告、承認。

【むし歯予防対策】

- 平成 26 年度までの県内でのフッ化物応用の普及率等及び平成 27 年度の取り組みについて報告。
- 高知市内の都市部の方が歯科医療機関も多く、郡部に比べて実施しやすそうだが、普及していない理由はあるのか。
- 歯科医師は多いが、学校規模が大きいため、養護教諭が郡部から市内に移ってくると難しいという意見がある。またフッ素反対派が一人でもいると進まない。高知市として努力していないわけではない。今後伸びていくとは思いますが、一気には難しい。
- 高知市内のフッ化物応用の普及については、関係者で協議しないと難しい。高知市歯科医師会としても、教育委員会や高知市保健所等、さまざまところに働きかけている。市内の学校歯科医にも働きかけて、小規模の学校から実施を進めて

いく。目標達成のためには、高知市が増えなければいけない。高知市では子育てクーポン券の中に、歯科医院で行うフッ化物歯面塗布の分が入っており、協力歯科医療機関は 196 歯科医院の内、130 施設を超えて賛同している。反対する人は、フッ素に対する毒物感が原因である。また、保育所でのフッ化物洗口の開始について検討している際に、施設から「保育所でやっても小学校でやらなければ、無駄になるのでは」という意見が出る。

- フッ化物洗口の普及については、資料等があれば市長会で配布するなど、市長会でも周知していく。
- 安芸市でもブラッシング、食育、歯質強化等を推進しており、平成 26 年度からは、県立安芸中学校以外では、フッ化物洗口が実施されている。
- 安田町のむし歯数が突出しているが、原因は何か。
- 原因としては、食生活等生活環境もあるが、フッ化物の利用が進んでいないことが明らかであり、平成 27 年度から、保育所、幼稚園、小学校、中学校の全施設で、フッ化物洗口を開始する予定である。中土佐町のように、フッ化物洗口を実施すると、むし歯は激減するので、今後、減少していくと思われる。県として、普及が進んできたのは、条例施行以降のことであり、最初は小規模の市町村や施設に限られていたが、この 2 年程度で、安芸市等の比較的規模の大きい施設でもフッ化物洗口が始まっている。先進県である新潟県では、マンモス校でもフッ化物洗口は実施されており、規模が大きい施設でも実施は可能である。県としては、今後も実施していない市町村や施設に対して、情報提供等の取り組みを進めていく。
- フッ化物応用の普及について、健康づくり婦人会等の声が大きい人に情報発信してもらえると効果が高いと思われる。高知市で設置した口腔保健支援センターにおいても、関係者による口腔保健検討会を開催しており、これまでは障害者歯科診療についてが主だったが、そうした関係者から、フッ化物応用を勧めてくれると、今後普及が拡大していくと思われる。
- フッ化物洗口をしているところ、していないところの県全体で比較をしているか。
- フッ化物洗口の実施率が上がってきたのは、条例が施行されてからであり、まだ 5 年目ということと、条例施行時に、保育所、幼稚園、小学校、中学校の全施設で実施していた市町村が、中土佐町だけといった状況であったため、顕著には効果が現れてきていないが、今後数年すると、まったく違った結果になると思われる。県としては、今後もデータの推移を確認していく。

【歯周病予防対策】

- 昨年度の県民公開講座で、星旦二先生のご講演の後、歯科保健に関する県民の意識も高まっており、老人大学等からも講演依頼がきている。
- 県からの委託事業である、妊産婦を対象とした出前講座事業については、産婦人

科医会、助産師会、看護協会等に情報提供を行って、7月以降に開始する予定で検討している。

- 全国健康保険協会では、歯周病対策について、地域ごとに意識の差があり、取り組みのばらつきがあるが、県が作成した啓発資材を、保健指導で活用している。
- 国保では、平成27年4月から歯科のレセプトデータと、生活習慣病と突合させ分析できるようになった。
- 高知市でも40歳、50歳、60歳、65歳といった方を対象とした節目健診は、現在なくなっている状況である。特定健診の中にも、歯周病検診がない状況であるが、次の見直しで追加されるよう働きかけている。

【高齢者等の歯科保健対策】

- 訪問口腔ケアを実施できる歯科衛生士の養成を、歯科衛生士会でも検討していきたいと考えている。
- がん医療連携等の医科歯科連携については、大学や医療センターなど、院内に歯科があれば進めていきやすいが、その他の病院についてどのように進めていけばいいか。
- 医療連携については、実際にどうしたらいいのかは、難しい課題である。

【災害歯科保健医療対策】

- 日本歯科医師会から、災害時の歯科保健医療対策の標準化に向けての冊子が出されたので、参考にしながら対策を推進していくのはどうか。
- 災害時の歯科保健医療対策はどこが基軸になって進めるのか。指針の活かし方、保健活動等にどのように盛り込んでいくのが重要。
- 災害時の歯科保健医療対策については、県歯科医師会や関係団体の皆様とこれから詰めていくところである。歯科コーディネーターの位置づけや、避難所運営マニュアル等への位置づけ等については、昨年度立ち上げた検討会等で、これから検討を推進していく。
- 災害時の歯科保健医療対策や、身元確認作業については、県内の歯科医療機関が非常に少ないため、県内外の協力が必要になる。そういった協力・連携体制等については、これから検討していく。

「議題（2）今後の予定について

- 今後の予定としては、来年度の基本計画改訂のための実態調査結果や、今年度の取り組み報告等を踏まえて、今後の歯科保健医療対策について、次回の推進協議会で検討する予定について、了承を得た。

6. 閉会

以上をもって議事全部を終了し、20時50分に閉会した。